



■ 恥ずかしいけど知らなかったなあ…

昨年10月、何年かぶりに映画を観ました。職場の同僚から映画「福田村事件」が上映されていることを聞き、観たい！と思い映画館に行きました。

ちょうど100年前に起きた関東大震災の時、千葉県福田村（現：野田市）で行商人15人が朝鮮人だと疑われ、幼児や妊婦を含む9人（産まれるはずだった子もいたので本当は10人）が地元の自警団に殺された「福田村事件」を取り上げた映画です。行商人が住んでいる土地は被差別部落だったという事実も描かれていました。大震災後に戒厳令が敷かれ朝鮮人虐殺があちこちで起きる中、朝鮮人と疑われた行商人が「朝鮮人なら殺してもええんか」というセリフが印象的でした。そして、囚われた時「水平社宣言」を唱える少年の声が、今も耳にも心にも残っています。

関東大震災が起きたことは知っていましたが、その最中にこんなことが起きていたなんて、恥ずかしいけど知りませんでした。

■ 時間が経つと「忘れた」「踏んでない」…！？

毎日新聞（11月5日）に映画「福田村事件」の監督である森達也さんとテレビでおなじみの池上彰さんの対談が掲載されていました。「失敗などの記憶を振り返るのはつらいし嫌な気持ちになるから、目を背ける方が楽。でも、誰かを傷つけたり失敗したことに向き合わず成功体験ばかりを記憶している人とは口も利きたくない…この国はマイナスの記憶から目を背けている」と森監督。「やはり事実と向き合うことが大事」と池上さん。「足を踏んだ時は謝ったけれど、時間が経てば『忘れた』『踏んでない』などと主張する。そのような態度をとれば足を踏まれた人は『ちょっと待ってくれ』と怒って当たり前」…と森監督。「負の歴史を記憶する。誰のためでもなく、自分のために」とも。人権・同和問題も同じ…目を背けない生き方をしようと思いました。

■ 何回聴いてもいいね～

12月16日出に土師五区において、人権出前講座を開催しました。

講師は、中屋区で開催した人権出前講座の時と同じ大分県佐伯市宇目にある鷹鳥屋神社宮司の矢野大和さんです。中屋区と同様、土師五区でも楽しく人権の話聞くことができました。笑い声があちこちから起こっていましたよ。

○気づかないところで、自分でも差別があるのに気づきました。

○最低の差別をしてもいけない、されてもいけない。

○朝から楽しい話、よく笑った。

○楽しく笑いながら勉強できました。

○改めて「笑うこと」「人をほめること」「人の話にうなづくこと」「人への声かけ」の大切さを学びました。一人ひとりの心がけで、世の中が変わると実感しました。差別解決の礎であると考えます。

○笑いの中に人権（同和、女性、高齢者、子ども等）の問題をさりげなく入れながら、皆さんを笑わせる講演でした。また聞きたいと思いました。



人権出前講座は、講師の紹介（費用は町が負担します）から開催まで、人権センターがしっかりお世話します。どうぞお問合せください。お待ちしております。